

No.13	踏み出し		
氏名	那須 優悟	理工学部	4回生
1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。			
【テーマ】オンライン講義教材「国際開発のためのデータサイエンス入門」の設計・ヒアリング調査・資料作成・動画収録 【目標】所属するICT4D Labメンバーの知見や経験を集約し、オンライン講義教材「国際開発のためのデータサイエンス入門」を製作する。講義形式はMOOCsタイプのオンライン教材（説明資料+解説動画）を想定している。説明資料は大学講義や講演会などオフラインの場面でも活用できるものを想定している。			
2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。			
【フェーズ1：設計】（オンライン） Slack（オンラインツール）を活用したプロジェクト推進を行った（コロナで自粛期間中でもあったため）。意見を取り纏め、講義の計画案として設計した。 【フェーズ2：ヒアリング調査】（オンライン） 設計案に基づき、ヒアリングを行った。ICT4D Labに所属するメンバー10人程度（博士課程の院生（米国でICTと途上国開発を研究中）、外資系のコンサルタント（アフリカのスタートアップ調査案件に従事中）、JICA職員（DX専門部署の立ち上げから実行までに従事中など）に、これまでの取り組みやキャリアの内容、現在取り組んでおられることを中心に聞き取りを行った。 【フェーズ3：資料作成】（オンライン） 収集した情報をもとに、講義用資料を作成した。ヒアリングしたメンバー中には、自分で資料を作成したいという社会人の方々もおられるため、スライドのフォーマット等を指定し、全体のスケジュールを管理しながら作業分担した。最終的には、個々人が作成した資料を統合した。			
5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。			
【オンライン講義づくりに関して】 今回の計画の未達分については、今後人との接触が再開できる環境になったのち、実行していこうと考えている。 また、大学生向けの講義用動画にアレンジしていく計画も立てているので、実現させたい。 【ICT4Dの活動について】 引き続き、世間でのICT4D分野の認知向上に努めたい。 また、自分自身が当該分野のエキスパートになれるよう日々勉強に努めたい。 【オンライン上でのプロジェクト推進力】 今回最も学び、身に付いたオンライン上でのプロジェクトオーガナイザーのスキルは、来週から総合商社で働く上で発揮していきたい。			
6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。			
【今後の学びに関して】 本奨学金採択以前は当該分野に関する興味関心は強かったものの、体系的な学問知や資格（G検定）を有していなかったため、あまり専門的な議論などに加わることが出来なかった。しかし、今回のオンライン講義をつくりあげるという過程において、様々な学問知を吸収することができ、専門的な議論に加われる場面も増えてきた。今後はより専門性の高い分野での議論ができるよう、更にICT4Dに関する専門知識を蓄積していきたい。 【今後の進路に関して】 来春からは総合商社で勤務予定になっている。コロナの環境下でなかなか人と会いづらい、海外の現場にいけない状況が続き、オンライン上でのプロジェクト推進力（SlackやZOOMをフル活用する）が試されると思う。今回の取り組みで学んだ力をいかし、活躍していきたい。			
7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元の点で記述してください。			
アフリカビジネスを学ぶ別のオンラインコミュニティにて、ICT4Dについての紹介（ミニプレゼン）する機会があった。その際に、ICTを使った途上国開発の分野があるんだ〜と参加者の視野を広げる貢献ができていれば幸いである。			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。

3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。

当初は東京に遠征し、自分が興味ある分野の第一線で活躍されてる方々からお話を対面で直接聞ける予定であったが、コロナの影響でそれが叶わずモチベーションが落ち込んだ。しかし、実際にオンラインでインタビューをしてみると、意外と楽しくインタビューを実施することができたため、モチベーションが回復した。今振り返ると（オンラインでのコミュニケーションに適応した状態）、何で対面じゃなかったただけであんなにモチベーションが凹んだのかわからないが、当時は悲しかった。つまり、この半年を経て、何かプロジェクトを進める上でコミュニケーションをとる際、オンラインでの対応が自分中での当たり前になるという変化が起きたと気付いた。

3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？

正課との関連や影響はなかった。強いて言えば、今回の取り組みで資料作成能力が向上し、卒論の口頭試問用の資料作りに役立った。

4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。（該当ナンバーに○）
また、併せて評価の理由も書いてください。評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】

① 目標の達成度	4
<理由> 当初の想い（ICT4Dという分野をより多くの人に知ってもらいたい）は、色んな形で発信する機会があり、達成できた。しかし、資料というカタチで成果物は完成したが、当初予定していた講義の収録までには至らなかったから。	
② 計画の達成度	3
<理由> 資料というカタチで成果物は完成したが、当初予定していた講義の収録までには至らなかったから。	
③ 取り組みを通じた自己成長	4
<理由> オンライン環境下でも、10人程度の社会人を調整してプロジェクトを遂行できる力は、自身が成長できた点だと思う（計画は未達だったが、前進はできたので）	

10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。

① 身についた力 情報収集・発信力
② ①で記述した力について具体的に説明してください 色々な人の話をヒアリングし、要点を資料にまとめる力
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください 目標であるオンライン講義の作成に向けて、情報収集を行い資料を作成する（発信の為に媒体づくり）経験を長時間積んだから。